

グラントワフ応援団通信

平成26年
8月24日発行
第38号

文化で地域を元気に

いわみ芸術劇場

文化事業課長

木原義博

平成二十五年度の一年間、人事異動により松江市のしまね文化振興財団事務局に勤務し、一年ぶりにグラントワフに戻って参りました。人生初の単身赴任。松江での生活は城下町文化が溢れ、また、赴任した時に「松江では折りたたみ傘をいつも持っていた方がよい」と言われたとおり「雨文化」もあります。人口が元々多い中、遷宮効果も相まって島根県民会館内も大変賑わっていました。

同じ島根県でも東部と西部の文化の違いを体感出来た貴重な一年間でした。さて、「文化」は「豊かな心の醸成」「経済効果」「若者定住」など「地域の活力」に様々な好影響及ぼすのではないかと思います。

最近で言えば、石見美術館で開催された企画展「トーマス展」は多くの家族連れで賑わいました。やはり子どもの存在は地域に元気を与えてくれます。また、現在開催中の企画展「日本のデザイン展

」は日本の高度経済成長期に作られた作品が大人の元気を取り戻させます。

劇場に目を移すと、6月のAKB48の公演は3000席の席を求めて10倍の応募があったと聞きます。益田駅からグラントワフまでの通称「駅前通り」は歩行者で溢れ、聞くところによると飲食店もかなりの売上げがあったそうです。遠くからは私が見ただけでも「大宮」「大阪」「滋賀」「熊本」ナンバーの車が駐車し、

反響の凄さを感じました。また、益田では17年ぶりに開催した松山千春さんのコンサートは青春時代を懐かしむお客様がスタンディングで会場を盛り上げました。11月には20代までがファン層の大半を占める「MINMIコンサート」を開催します。このコンサートは常々若い人から「グラントワフが出来たけど、若者向けのコンサートが少ない」という声に

呼応し実施するもので、反応が心配ですが楽しみでもあります。

そして、今年度最大の事業は「いわみ発 創作オペラ ヒト・マル」です。当地にもゆかりの深い柿本人麿を介して地元を中心にスタッフ・キャストを公募し、石見の地から新しい世界、新しいオペラを発信します。

その他にも文豪であり軍医でもあった森鷗外を題材にした演劇「鷗外の怪談」など、様々な文化事業を通して「活力ある地域作り」に少しでも貢献出来ればと考えます。

また、このことと並行して「文化の地域間交流」も大きなテーマとして取り組むことにより、人々が地域を行き来し、交流が生まれ、「文化的化学反応」が発生し、「島根文化力」が更に高まれば素晴らしいと思います。

幸か不幸か島根県は「隠岐」「出雲」「石見」という東西に長く離島もある三国から成り、それぞれ独自の文化が今もなお引き継がれていますので、「地域間交流」はまさしく「島根文化力」の向上に寄与するものだと思いますが、実現に向けては数々のハードルがあり、そのハードルを乗り越えるキーワードが「人財」ではないかと思っています。人口が70万人を割り込み、少子高齢化が進む島根県を心豊かで元気にする

ためにも、地域や人との「連携、協働」による文化振興を図っていきたく思いますので、更なる惜しみないご協力をお願い申し上げます。



【企画展 美しい日本のデザイン】



いわみダンスプロジェクト2014

グラントワ季節行事【七夕】

イベントボランティア

城市恵子

今年のグラントワ七夕飾り、いかがでしたか？ 我々イベントグループが主体でおこなうようになって3年目（3回目）となります。これまでの経験、反省をもとに入念に準備をいたしました。七夕搬入当日の様子です。

搬入日、六月二十九日朝九時いざ出陣！ まずは竹取りから始まります。精鋭十名の竹取部隊、あうんの呼吸で自分の役割をこなしていきます。竹を切り出す者、運ぶ者、竹をカットする者、切り口を始末してトラックに積み込む者。約一時間で40本弱の竹をトラックに積み込むことができました。それをグラントワ回廊に運び込み、塩水入りのペットボトルに即立てかけます。早くしないと、葉っぱが丸まってしまうのです。35本の竹を立てかけた所でちょうどお昼。御飯は島田さつきさん手作りのカツカレー！ デザート付き(笑)木原課長さんよりお米の提供を受け、おいしくいただきました。

ここまでで、かなりの進化をみせているのですがさらにここからです。午後から飾り付けのお手伝に15名ほどが加わり、竹の剪定後いっしょに飾り付けをし終わったのが午後三時半！ 奥田さん作の天の川もあり、すてきな七夕飾りとなりました。もちろん益田市内全33幼稚園・保育園に依頼をした短冊560枚、オペラ「ヒト・マル」参加者の短冊、来館者用の短冊などでにぎやかな回廊となりました。

石の上にも三年と申しますが、三年目でようやくスムーズに。そして華やかな七夕飾りが完成しました。お手伝い頂きましたみなさまありがとうございました。みんなの願い事がかないますように。来年は開館十周年、さらに進化した七夕ができたらと今から楽しみです。



「カレーライス」

情報発信ボランティア

洗川光廣

先日、ボランティア会の交流会が開催された。会は開館以来、今年で9年となるが、当時から会員でボランティア活動をしてもらえる顔は、それぞれ、元気はつらつとして若々しい、張り切っておられる様子、開館以来のグラントワボラン

ティア会の仲間である。今回、若い女性会員の参加に気が付いた。市内で働いておられる様子で、頼もしい人材が加わっていることを知った。

交流会でのビンゴゲームで、500円券をいただいたので、後日、夫婦二人でグラントワのレストラン・ポニーで、昼食をとることとなった。以前、ここで、二人で昼食に「牛筋カレー」をいただいたことがあったが、美味しいカレーだった。また食べたいたいと思って、後日に入った時は、売り切れの品となっていたが、そこで紹介されたのが「カツカレー」であった。これがまた美味しいカレーであった。そこで、今回、これらの「カレーライス」を食べに二人で行くことにした。

来客は数人奥の席にいたが、私たちは窓辺の席で正面玄関の大蛇像を眺めながら、昼食をゆっくりと味わった。美味しかったねえ！

帰り道、グラントワの小ホール横の通路からの帰り、歩いていて目の前の風景がグラントワとの一体感となっている。グラントワの道が、街の道に一直線に伸びる景色、遠近の風景はとても美しいと感じた。

この通りは、グラントワの芸術文化の薫る空気がながれ漂い市街へと延びている、落ち着いた通りとなっているようだ。

グラントワのレストラでの食事以来、ここに来てゆっくりと、二人で食べることが、私たち夫婦の最近のひそかな楽しみの一つとなってきた。

【あとがき】

『七夕』は七日の夕方に行われ、本来「しちせき」と読みますが、どうして「たなばた」と読むようになったのでしょうか。七夕は古代中国の伝説が起源で、牽牛（星）と裁縫・習字を司る織女（星）が、天の川を挟んで一年に一度会うロマンの伝説が日本に伝わっています。

一方、日本にも古代、旧暦七月に、水の神を祭るため、乙女が機織をし織物を神に捧げていたことを「たなばた（棚機）」といいました。この「たなばた」の水・織物と「しちせき」の天の川・裁縫が合わさって「七夕（たなばた）」と言うようになったということです。

今回寄稿の文章にもありますように、グラントワでは今年も七夕飾りを行いました。見てみると、なんだか幼稚園児だった日々を思い起こします。あの頃、短冊になんて願い事を書いたことでしょうか。「アンパンマンになれますように！」とはまだ書ける筈もない遠い日ですから「お金持ちになりたいなあ！」なんて書いたのでしょうか。そして永い年月が過ぎ、今でしたら「健康が一番！」と書きたいような。

日本人男性の平均寿命が女性に続いて初めて80歳を超えました。でも日常生活を支障なく送れる「健康寿命」は男性70歳、女性73歳です。若いも若きも心身のバランスを保持し元気で過ごしていくには、趣味、スポーツ、地区の活動、そしてボランティアが有効だということです。（陽竊）